



撮影  
Joi Ito



## 第1回 デジカメの代わりに Huawei のスマホを買ってみた

今月号より、新連載「買い物自慢」をお届けする。最近買って良かったものをオススメする。ただそれだけの記事である。

『情報処理』は難しい記事が多い。最先端の研究者に最先端の研究成果について書いていただいているのだから当然である。とはいえ、読むには気合いがいる。

編集委員になって思った。雑誌というのは、もっと雑じゃなくちゃいかん。パッと手にとってサラッと読んで、すぐに仕事に戻れるくらいの手軽さが欲しい。そこで、4コママンガの次くらいに気を抜いて読める記事を考えてみた。それがこの「買い物自慢」である。

研究者は、存外買い物する機会が多い。専門にかかわるものだったらしっかり調べるが、そうじゃなかったら、評判が良いのを買いたい。とはいえ、同業者の立場から見て有用な口コミは、意外ところがっていない。研究者ならではの条件(論文を読む、出張が多い、多少高くても性能が良ければかまわないなど)もあるだろう。そのようなニッチなおすすめ情報を共有したい。

### ◆ デジカメの代替機としてのスマホ

私がおすすめるのは、「HUAWEI P20 Pro」である。これも旧型になってしまった。今買うなら「P30 Pro」だろう。どちらにも共通したことを書いておくと読んでほしい。

元々はデジカメを買おうと思っていた。研究の一環として記録を撮る機会が多い。できるだけ高いクオリティで残したいが、本の表紙にするほどのクオリティは要求されない。デジタル一眼レフやミラーレスは持ち歩くのが面倒だ。コンパクトデジカメはサイズと画質の点では申し分ないが、撮影してすぐにSNSにアップしたいという希望もある。最近はスマホ連携がよくできると言うが、それでも面倒。では、いっそのこと、性能の良いスマホをデジカメとして使ってしまう方がいいのではないだろうか。

### ◆ カメラ性能の良いスマホを探す方法

DxOMark<sup>☆1</sup>は、カメラ機能を点数でレビューし、ランキングしている。2019年6月17日現在で、1位がP30 Proである。つまり、カメラ性能の良さで選ぶとHuawei一択なのだ。このランキングの変化は早く、本紙が出版されるころには変わっているかもしれないので要確認だ。

☆1 <https://www.dxomark.com/>

### ◆ HUAWEI P20 Pro の特長

普通に撮影してきれいに写る。これがまずはカメラとしてうれしいところ。だが、それだけではない。AIを搭載しており、被写体によってモードが自動的に切り替わる。被写体が人物であることを検知したら、ポートレートモードに切り替わる。人物だけに焦点が合い、背景がボケる。これはかなりカッコいい。また、被写体が食べ物、植物、青空などによっても切り替わる。

暗所での撮影にも強い。HDR撮影の強力版で、何枚も露出を変えて撮影し、重ねあわせる。これがとてもきれいに重ねあわせてくれる。

### ◆ ズームレンズ重要

買う前は意識してなかったが、ズームレンズは予想以上に重要。光学3倍ズームレンズが搭載されている(P30 Proは5倍)。たとえばシンポジウムに参加した際に、後ろの方の席になってしまうことはよくある。そのような場合でも、ズームレンズできれいに画面を撮ることができる。

### ◆ 驚異の動画性能

手ぶれ補正の性能が高く、普通に手で持って撮影してもほとんどブレない。歩くとさすがにブレるが、GoProと比較しても遜色がない。

### ◆ スマホとしての基本機能の高さ

普通のスマホなので、撮影してすぐSNSなどにアップできる。地味に便利なのが充電の速さ。超急速充電で、約30分で60%程度充電してくれる。

さて、Huaweiといえば、いろいろな意味で話題だ。本稿の初稿執筆時からはいよいよ状況が変わってしまった。Huaweiをめぐる政治的状況について触れることは本稿の対象ではないが、実際に買うとなれば相当な覚悟が必要だろうと思う。また、スマホなので、デジカメの代わりに経費で買いたいといっても、通るかどうかは分からない。単純に「性能が高い」という理由で買えるといいですね。そのためにこの記事が役に立つことを願っています。



写真1 HUAWEI P20 Proの背面。LEICAロゴが映える。

(2019年4月15日受付)